

※保護者のご承諾をいただいた赤ちゃんを、
撮影・掲載しています。

あくあく育て

乳 幼 児 健 診

(平成22年9月17日=千寿苑)

4ヶ月
健診

7ヶ月
健診

1歳児
健診

ぼく・わたし

虫歯
なかったよ！

～4歳児歯科検診～



子育て悩み解消法



池田 洋子さん

山都町地域子育て支援拠点事業の子育てセミナーが9月23日千寿苑で行われました。今回は「子育て悩み解消法」と題し、池田洋子さんの講演です。池田さんは、前熊本市こども文化会館主幹で、4月から熊本市の総合子育て支援センターで活躍されています。県内各地で子育てに悩む母親のためのアドバイザーとして講演され、2007年に県が発行した「パパ手帳」の製作委員の一人でもあります。

池田さんは「子どもの時間は大人への大事な準備期間。その行動にはすべてに意味があり、大人の都合で行動を制限してはだめ。」と幼少時に一緒にいろんな体験をすることの重要性を語りました。また、「親だけで子育てすることも大事だが、「地域」の中で育てることも重要である。子育てとは家庭内で言葉・生活習慣・人とのコミュニケーションなど生きていく上でのライフスキルを援助してやること」だと話し、参加したお父さんお母さんにアドバイスしていました。

第3回 九州脊梁山脈トレイルラン in 山都町

9月26日、清流館をスタート、ゴールとする「九州脊梁山脈トレイルラン」が開催され、県内外から243名の選手が、標高差1000mを超える過酷なコースに挑みました。

第3回を迎えた今大会。午前7時に清流館をスタートした選手たちは、九州山地の尾根に沿った35キロのコースを9時間という制限時間内でのゴールを目指します。

スタート直後の5キロ地点で、選手たちがハチに襲われる事故が発生し、刺された7名が病院に運ばれるという事態となりましたが、病院の処置により幸いにも軽傷だったということです。

いきなり自然の脅威を目の当たりにした選手たちでしたが、その後もがけ地や急勾配の登り坂など厳しい条件のコースが続きました。

そんな厳しい条件に臨む選手を癒すため、コースの各所に、九州ハイランドインストラクター協会のみなさんなどによるエイドステーションが設けられていました。飲み物などの提供とともに温かい声援が選手たちを励まします。

過酷な登りに続いて選手たちを待ち受けるのは、コース終盤の厳しい下り坂です。選手の足を容赦なく痛めます。

このようなコースを無事に駆け抜けた選手たちが、次々とゴールに駆け込んでいきます。出迎えるのは地元の子どもたちが叩く緑仙太鼓。さらに、猪汁などの

おいしい地元料理が提供されていました。ゴール後には、熱くなつた体を川に入って冷やす光景も見られました。

ある選手の「コースは厳しくて格別だったが、景色もまた格別だった」という感想が印象的でした。また「走りやすくて良かった。また来たい」という県外から来られた選手の感想も聞くことができました。

この選手の感想は、地元の方々の熱心なもてなしによるところが大きいと感じた大会でした。

年代別の上位選手（敬称略）

40歳未満男子	1位	小林 秀樹（大分県）	タイム3時間41分49秒
	2位	原口 伸一（宮崎県）	タイム3時間43分01秒
	3位	高木 順也（熊本県）	タイム3時間45分02秒
40歳以上男子	1位	田中 利章（福岡県）	タイム3時間41分00秒
	2位	楠 吉博（熊本県）	タイム3時間41分36秒
	3位	河田 透（熊本県）	タイム3時間49分07秒
40歳未満女子	1位	山崎 広美（福岡県）	タイム4時間05分27秒
	2位	武友 麻衣（福岡県）	タイム4時間36分18秒
	3位	森 奈津代（熊本県）	タイム4時間58分12秒
40歳以上女子	1位	一村多美代（熊本県）	タイム4時間42分27秒
	2位	信国 敦子（福岡県）	タイム5時間10分15秒
	3位	本山さゆり（熊本県）	タイム5時間25分40秒

